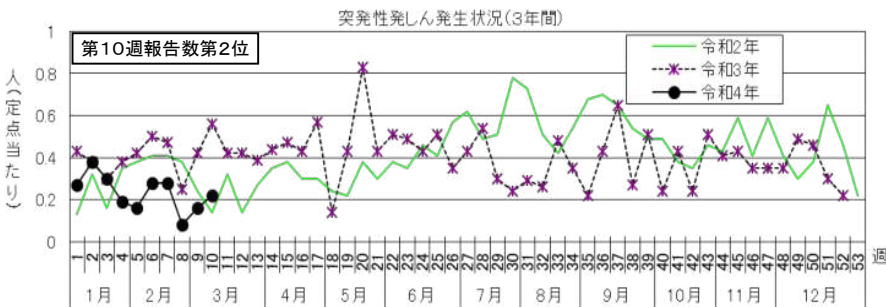
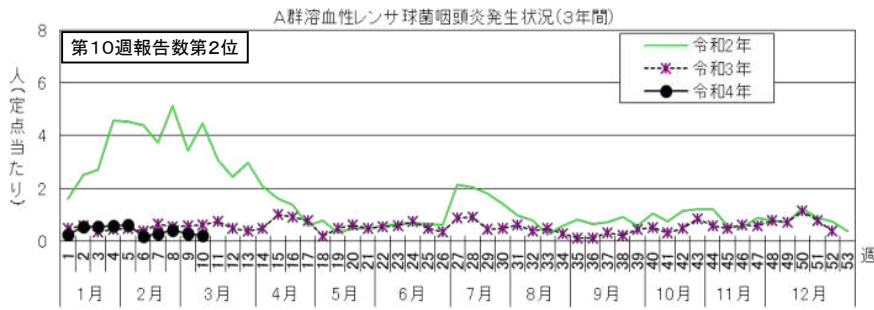
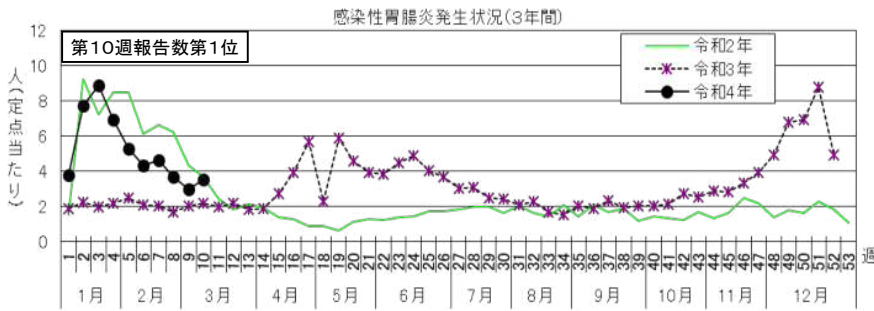


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年3月7日（月）～令和4年3月13日（日）〔令和4年第10週〕の感染症発生状況

第10週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・突発性発しんでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.51人と前週（3.00人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.22人と前週（0.27人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.22人と前週（0.16人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



梅毒の報告数が増加しています！

梅毒は、梅毒トレポネーマを原因とする細菌感染症で、主に性的接触などにより粘膜や皮膚の小さな傷から病原体が侵入して感染します。

川崎市における梅毒の報告数は、令和2年までの3年間は減少傾向でしたが、令和3年は再び増加し、令和4年は第10週（3月7日～3月13日）までに計18件の報告がありました。今後過去5年平均と同様のペースで増加すると、令和4年の報告数は100件を超える可能性があります。

梅毒は、無治療のまま経過すると脳や心臓などに重大な合併症がみられるほか、妊婦が感染すると胎盤を通して胎児に感染し、流産や先天梅毒などを引き起こす可能性があります。感染が疑われる場合は、早期に医療機関等を受診し、検査及び治療を受けることが重要です。

先天梅毒の症状・治療・予防について

【症状】

先天梅毒は、発症時期によって早期先天梅毒と晩期先天梅毒に分けられます。

・早期先天梅毒

生後まもなく皮膚病変、肝脾腫、骨軟骨炎、などを呈する。

・晩期先天梅毒

乳幼児期は症状を呈さず、学童期以降、実質性角膜炎、感音性難聴、歯牙変形などを呈する。

【治療】

抗菌薬治療

【予防】

スクリーニング検査等による早期発見・早期治療

梅毒は1度感染しても終生免疫は得られず、何度も感染する可能性があります。

川崎市における梅毒の性別発生状況 -平成25年第1週～令和4年第10週-

